



## 1人で生テレビ



4月初旬、土曜日の昼下がり。私は都内、乃木神社で友人の結婚式に出席していた。快晴に恵まれ、気まぐれな春風が時折、屋外に設置された緋毛氈の上に桜を散らす。日本的で雅(みやび)な光景の中を、イタリア語と英語が飛び交っていた。「コングラチュレーションズ!」「ベリッシマ!(美しい)」。新郎はローマ在住のイタリア人、新婦は日本生まれアメリカ育ちの日本人だったからだ。そんな、まるで『ゴッドファーザー』の脚本を鈴木清順が監督したような、映像映える式の様子を、私はネット経由で中継していた。それも、1台のノートパソコンとPHSカードだけを使い、技術者のアシスタントも何もしないで。

ソニーの「パーキャストTV」**Jump01**というサービスを使えば、これまでインターネット中継の大きなハードルになっていた「配信サーバー」が個人でも気軽に利用でき、文字どおり1人だけで撮影から配信までができる。機材は、「VAIO GT」をソニーさんから借りることができた。

さて専門的な技術が不要とはいえ、やはり基本設定は自分でやらなければならない。当日の朝、本番に必要な設定を完了するまでには、約2時間かかってしまったが、今後はソフトの改良で容易になってゆくだろう。それ以前に、中継の時間は10分単位でウェブ上から登録を済ませ、予約しておく必要がある。気になる値段は、一度に10ユーザーまでが1,500円(10分)、50ユーザーまでが3,000円(10分)という現実的なもので、見る側はリアルプレイヤーのバージョン7以上が必

要なだけだ。

本番の中継は、そこそこの成功だった。控え室の状況から、式、その後の記念撮影まで1時間ほどを、イタリアやオランダの友人に向けて中継できた。その模様は、私のウェブサイトにおいてあるので、興味がある方はご覧いただきたい**Jump02**。「そこそこ」というのは、PHSの状態によって、接続が何回か切れてしまったことと、私自身がカメラの操作に習熟していなかったため、屋外の映像が明る過ぎたからだ。本誌編集者に別の場所でリアルタイム中継に接続してもらい、現場から携帯電話で中継されていることを確認する、という妙な状況だったが、自分1人と手軽な機材で本当に中継できてしまうことは相当楽しかった。

コンピュータが、私たちの生活に直接の影響を与え始めたのは、研究室や大企業の占有物から「パーソナル」なものになったあとだ。そして今、放送が「パーソナル」になり始めた。ブロードバンドの時代は、今の個人サイトのように「個人放送局」が乱立するだろう。オンデマンドだけでなく、ライブ中継も盛んになる。湾岸戦争のような衝撃的な映像や、とんでもなくマイナーなスポーツの試合が個人サイトから流されるようになる時代はもう目前なのだ。しかし同時に、今の「放送」では考えもつかないようなコンテンツが確実に登場するはずだ。私が有料でも観たい「パーソナル放送」は、米国株個人デイトレーダーのライブ・トレード中継だ!

**Jump01** www.percastv.net

**Jump02** www.masuyama.com/elland/

Video image used by the courtesy of Ms. Anna Lombardi. ©Graziel



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)